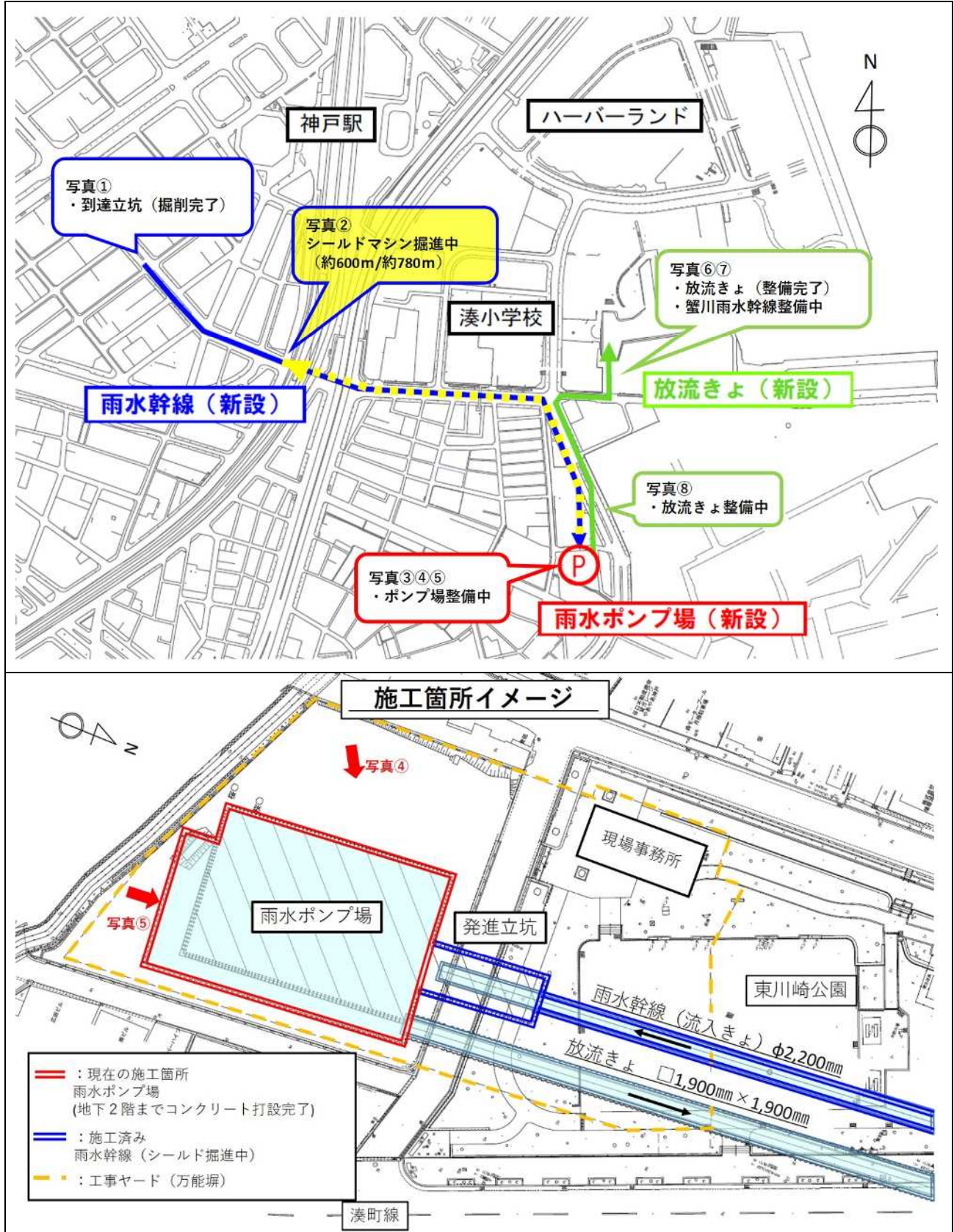


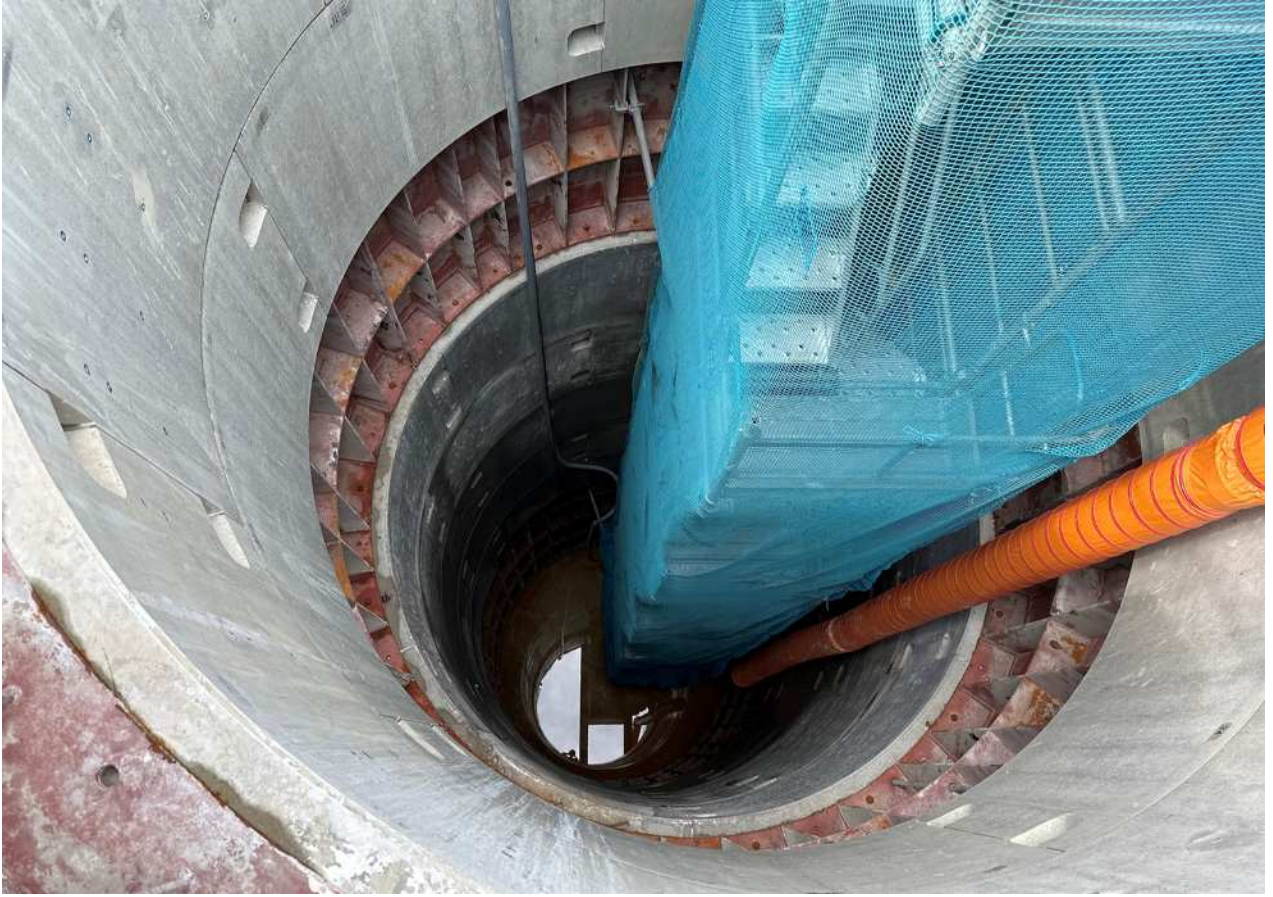
神戸駅周辺地区浸水対策事業の進捗状況（2023年10月）

雨水幹線の到達立坑の掘削が完了しました。シールドマシンは JR 高架橋を越えたところまで進んでいます。ポンプ場・放流きよの整備も進んでいます。

2023年9月の工事状況です！



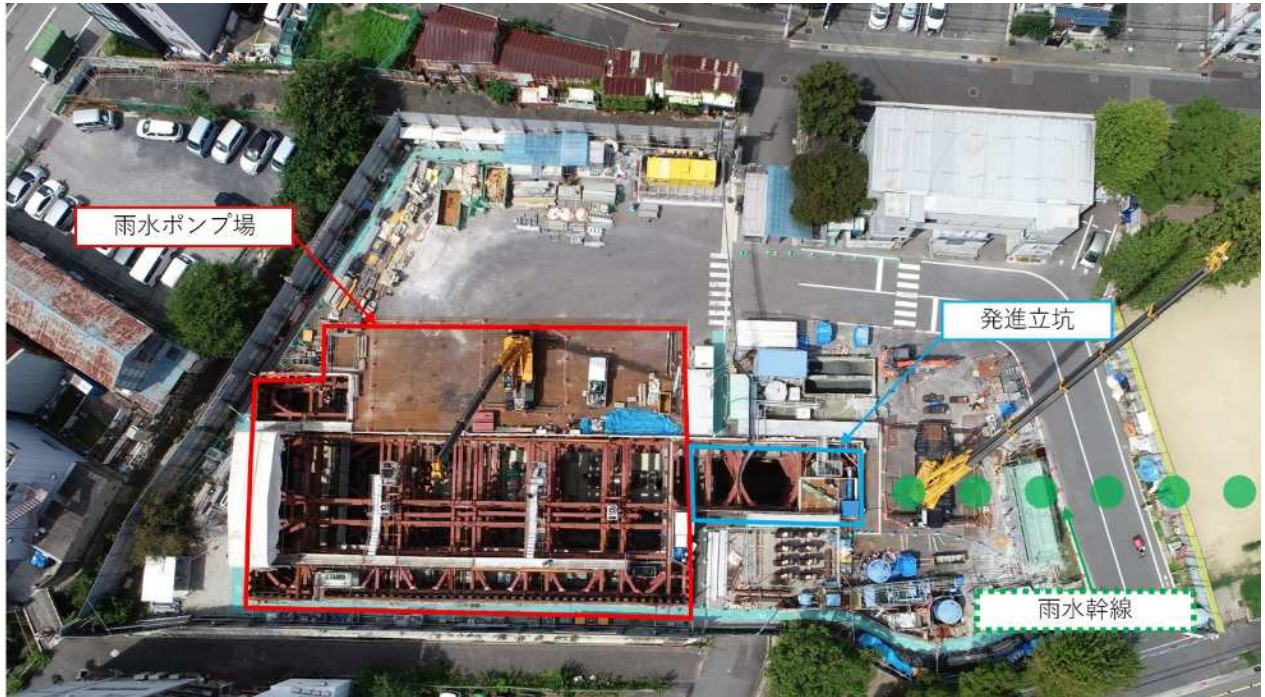
①雨水幹線（内径 4000mm・深さ約 15m の到達立坑の掘削が完了しました。）



②雨水幹線（シールドマシンで掘進中です。JR 高架橋を越えた所まで進んでいます。）



③ポンプ場全景（ドローンによる空撮）



④ポンプ場全景



⑤ポンプ場（地下2階床までコンクリート打設が完了しました。）



⑥放流きょ（ドローンによる空撮。一部区間が完成しました。）



⑦放流きょ（1900mm×1900mmの放流きょが完成した区間。隣に雨水幹線を築造中です。）



⑧放流きょ（引き続き、残る区間の整備を進めています）



概要

東川崎町を含む神戸駅周辺地区は神戸駅の南東に位置する低地盤地区で、高潮による海水の逆流や内水の溢水による浸水被害が度々発生している地域です。

近年では、2017年台風18号、2018年9月には台風21号により、国道2号の冠水による通行止めや東川崎町の家屋浸水など、大規模な浸水被害が発生しました。

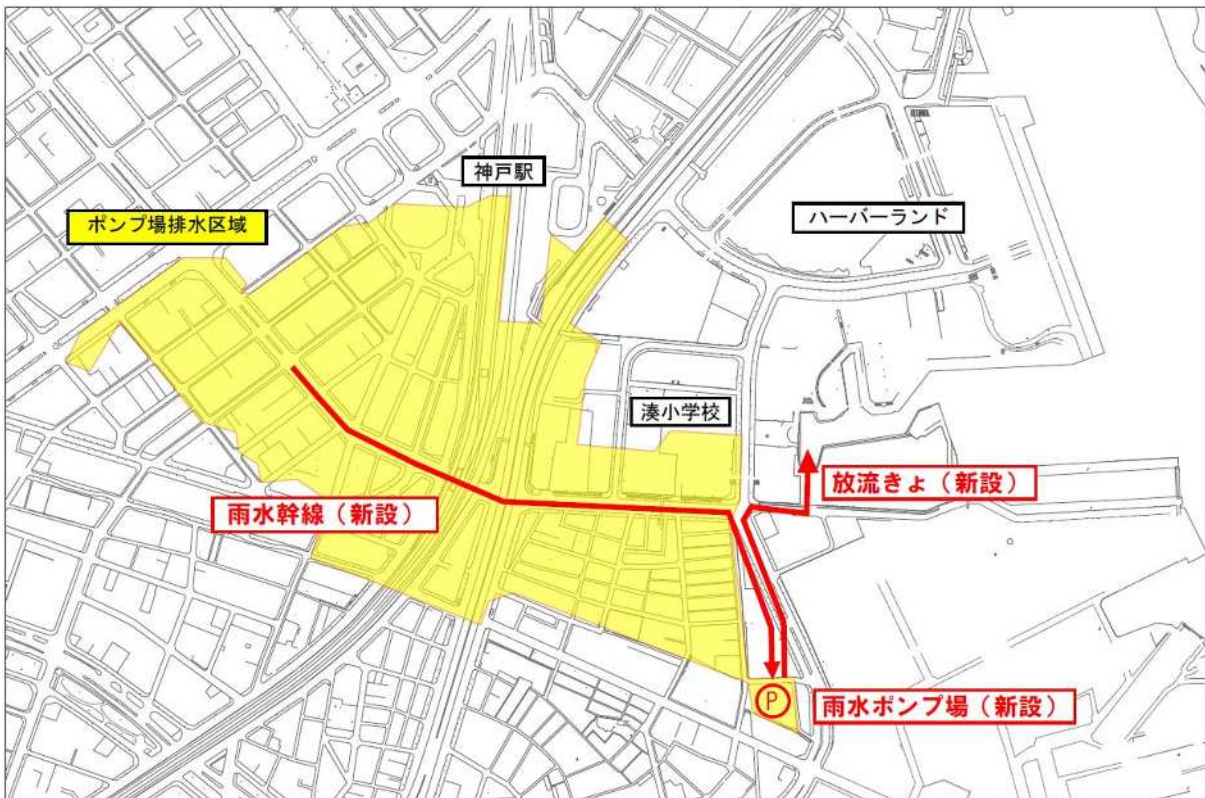
そのため神戸市建設局では、雨水幹線、雨水ポンプ場や放流きょなどの整備による浸水対策を進めています。



2018年9月 台風21号による浸水状況（中央区東川崎町）

事業内容

神戸駅周辺（約22.3ha）において、10年に1回程度の確率で発生する降雨に対応する雨水幹線や雨水ポンプ場の整備を進めています。



事業工程（予定）



雨水ポンプ場完成予想図



過去の工事状況

過去の工事進捗状況の写真や図面を掲載しています。（PDF ファイル）

- ・2022年1月 工事の準備として、敷地の整備をしました。
- ・2022年6月 雨水ポンプ場を造るための仮設工事（土留め）を実施しました。
- ・2022年8月 雨水ポンプ場を造るための掘削工事を実施しました。
- ・2023年1月 雨水ポンプ場を造るための掘削工事及び雨水幹線の工事準備を実施しました。
- ・2023年3月 雨水ポンプ場を造るための掘削工事が完了しました。また、雨水幹線を造るシールドマシンが発進しました。

用語の説明

雨水幹線 : 主に市街地の雨水を排水するために設けられた管きよで、比較的大きい断面を持っています。

今回の工事では、管径 2.2m、延長約 782m の雨水幹線をシールド工法で整備します。

雨水ポンプ場：雨水を自然に排水できない地盤の低い地域において、管きよで集めた雨水をポンプでくみ上げて近くの河川や海に放流するために設けられる施設です。

今回の工事では、1秒で5.7m³をくみ上げることができるポンプ場を整備します。

放流きよ：雨水ポンプ場でくみ上げた雨水などを放流するための管きよ施設です。

今回の工事では、管径1.9m×1.9m、延長約334mの放流きよを開削工法で整備します。

管きよ：一般的に道路の下に埋まっています、汚水や雨水を処理場や放流先まで流すための管路施設です。